

Neo Extraction 臨床口腔外科医師チームによる次世代抜歯

広島県広島親知らず専門外来院長・(株)全国おやしらず専門外来代表・CDAC口腔外科代表 石橋 真乃介



緒言：

さまざまな分野において技術的な革新が進む中、抜歯治療においては未だに古典的な器材や術式が用いられる場面が多くあります。また、ほとんどが健康保険内で行われる治療であり、経営的な側面から多くのクリニックで十分な診療時間を確保することが難しいという現実もあります。そのため「早く抜ける=上手い抜歯」という風潮が少なからず存在しているのではないかと感じます。しかし他の多くの歯科治療がそうであるように、本来は抜歯治療においてもより良い治癒や周囲組織の長期的な安定を第一に考えて行われるべきではないでしょうか。当院では歯科麻酔科医師と連携し静脈内鎮静法下に患者1名につき2時間の予約時間を確保したうえで、Piezo Surgeryを用いた自由診療での抜歯治療をメインに行っています。既に多くの文献でPiezo Surgeryを用いた抜歯は従来の回転切削器具を用いた抜歯と比較し、術後の疼痛・腫脹・ドライソケットなどの観点から良好な治癒が得られると報告されています。私自身の臨床感覚では治癒に関しての優位性は勿論のこと、従来の方法と比べて処置自体のクオリティーまたケースによっては処置時間も改善すると感じています。このPiezo Surgeryを主役とした抜歯テクニックを「Neo Extraction」と名付けました。本稿ではこのNeo Extractionについてご紹介させていただきます。

症例1：

30代女性 右上4番 インプラント治療前の抜歯

従来の方法では最終的に周囲の歯槽骨にヘーベルを掛けることになるかと思います。しかしながらヘーベルによる歯槽骨への応力は疼痛や腫脹はもちろん歯槽骨吸収の要因にもなります。ここでは周囲歯槽骨、特に歯槽骨頂部に応力を掛けない抜歯テクニックをご紹介します。

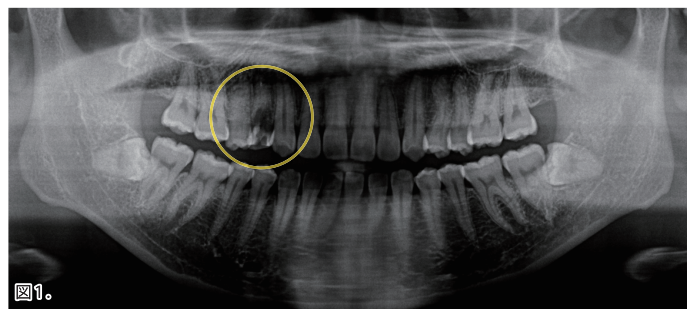


図1。

術式：

軟化象牙質を除去。残根周囲にEX1を用い歯根膜腔を拡大。歯根頰側を分割抜去し、抜歯用の新チップであるEXL3を差し込むスペースを作成。EXL3で釣り針を食い込ませるようなイメージでしっかりと歯根に差し込みます。そしてチップ先端に支点を置き、軽く口蓋側方向へ力をかけます。するとチップ先端を中心に反時計回りに回転するように歯根を抜去することが出来ます。Piezo Surgeryを用いた抜歯は「抜く」というより「剥がす」イメージです。EX1で周囲骨から歯根をしっかりと剥がし、EXL-3で釣り上げていきます。このEXL3での抜歯を釣りの要領で行うことから「フィッシングテクニック」と呼んでいます。



図2。



図3。

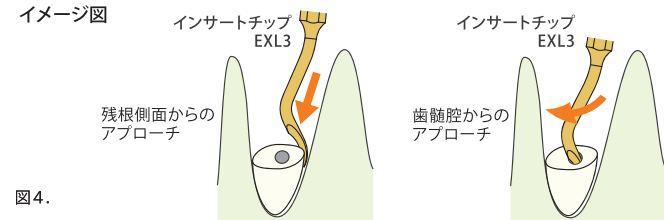
フィッシングテクニック
イメージ図

図4。

症例2：

10代男性 逆性上顎正中過剰埋伏歯 矯正治療前の抜歯

口蓋部の抜歯はさまざまな器材がアプローチしづらい場所です。また逆性となると骨削量も多くなり、最大豊隆部付近にヘーベルを掛けるのに苦労することもあります。一方、Piezo Surgeryのチップを用いることで低侵襲かつ効率的なアプローチで抜歯をすることが可能となります。



図5。



図6。

術式：

通法通り粘膜骨膜弁で剥離。埋伏歯周囲にEX-1を用いグループ作成。抜歯用の新チップEXL3を用いフィッシングテクニックで抜歯。この際、最大豊隆部までEXL3が届いていなくても、チップが歯根にしっかりと食い込んでいれば、そのままフィッシングテクニックで抜去することが可能です。



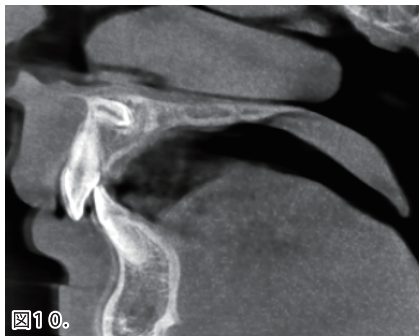
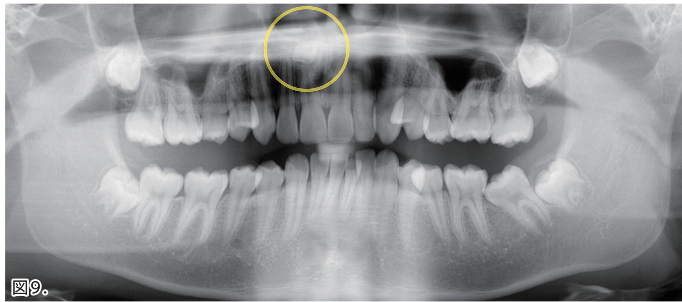
図7。



図8。

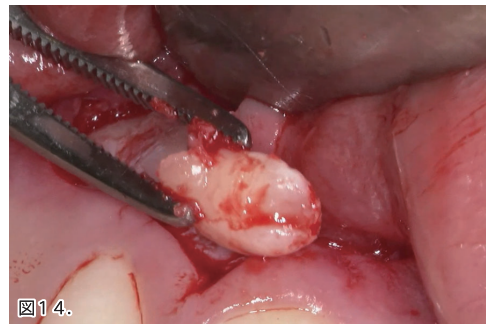
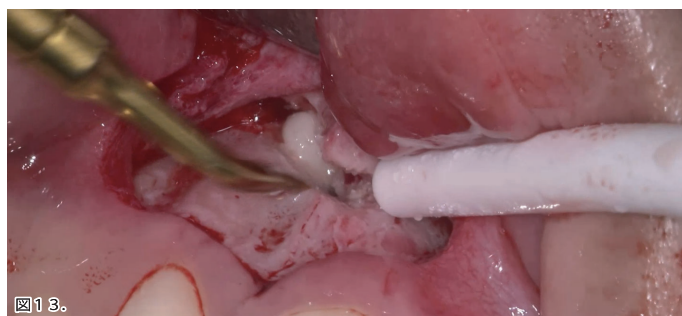
症例3:

10代 男性 深部上顎正中過剰埋伏歯 矯正治療前の抜歯
最後に少し変わった抜歯方法をご紹介します。症例2
と同様のケースですが、さらに深部に埋伏しているケースです。
唇側からのアプローチを選択しましたが、骨削量を軽減させる
ためサブスパイナルテクニックという方法で抜歯しました。



術式:

切開剥離後、OT7にてV字状に上顎骨分割ラインを作成します。
骨ノミにて槌打し骨片を分離させ、鼻腔底ごと挙上します。内部
に見えた埋伏歯をEXL3にてフィッシングテクニックで抜去しま
す。骨片を元の位置に整復し、縫合します。従来のラウンドバー
などでの処置と比較し、OT7を用いることで最小限の幅で骨削
が可能であり、また整復もしやすくなります。



結語:

Piezo Surgeryを用いた抜歯「Neo Extraction」は治療向上
だけではなく、抜歯治療の術式までも変えるゲームチェン
ジャーになると考えます。しかし熟達までにはそれなりの年月
と経験を要することも事実です。これから初めて抜歯に使用さ
れる先生にはまずはEX1からご使用いただき、熟達された先生
にはこの機会に是非、抜歯用の新チップEXL3にチャレンジして
いただきたいと思います。皆様の明日からの臨床治療に、微力ながら
お力になれば幸いです。



私の歯科医師としての目標は、臨床口腔外科医師がより良い
意味でこれまで以上に患者さんや歯科医師に認知され必要と
されていくことです。そのために私たち臨床口腔外科医師は
「早い抜歯」ではなく「精度の高い抜歯」を目指す必要がある
と考えています。そのうえで初めて患者さんにより良い抜歯
治療を行ってくれる専門家としてブランディングをしていくこと
が可能となります。これらの目標を達成するために、私はハード面
での整備として2024年に(株)全国おやしらず専門外来を立ち上げ
ました。日本全国のクリニック様にご協力頂き、2025年度中には私
の広島を含め東京・埼玉・神奈川・福岡の全国6院体制まで拡大し
て参ります。

またソフト面での整備として既に100名以上の日本歯科麻酔
学会認定医・専門医の先生方が在籍されるグループである
CDAC。こちらの臨床口腔外科医師のグループCDAC口腔外科
をCDAC代表である雨宮 啓 先生とご一緒に2022年に発足
させて頂きました。こちらは開業医さん向けに口腔外科の専門
性を提供するサービスや臨床口腔外科医師のコミュニティ、
セミナー活動などの場としてご活用いただけます。おやしらず
専門外来で働いてみたい先生なども是非ご連絡お待ちしております。
今後ともご賛同頂けます全国の口腔外科・歯科麻酔科
の先生方とパートナーシップを結び、日本全国どこに居ても、より
良い抜歯治療を提供できる環境を整えたいと考えております。
ご興味のある先生がいらっしゃいましたら是非ご連絡をお待
ちしております。

✉shinnosukeishibashi1204@gmail.com



CDAC ホームページ

PIEZOSURGERY®
white
ピエゾホワイト



掲載製品の詳細は株式会社インプラテックスまでお問合せください。